

【編集後記】「熊本地震から8か月」

熊本地震の発生から8か月が経ち、余震も治まってきたようです。振り返ってみますと、今回の熊本地震は地震の規模の割には人的被害が少なかったと思います。大きな前震があり、住民の多くが避難し、警戒する中で本震が発生したという、これまでにあまり例のない地震のパターンによるものだと思われます。

とはいえ、今回の熊本地震でも多くの課題が残されました。近年、南海トラフ地震や首都直下地震が強調され、その反動でそれ以外の地域では地震発生についての警戒感が薄れているという啓発の問題、震源地の益城町等で最近建てられたばかりの住宅が相次いで倒壊したことで耐震基準の見直し、多発した災害関連死とその防止策、避難の多様化と避難所の運営、自主防災組織の強化方策などです。

過去の体験（失敗）から教訓を読み取り、今後の対策に生かしていくことが日本人は案外、苦手だと言われますが、そうした欠点を克服し、熊本地震をしっかりと検証していくことが強く求められています。

地域防災に関する総合情報誌 **地域防災** 2016年12月号（通巻11号）

■発行日 平成28年12月15日

■発行所 一般財団法人日本防火・防災協会

■編集発行人 佐野 忠史

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16（日本消防会館内）

TEL 03 (3591) 7123 FAX 03 (3591) 7130

URL <http://www.n-bouka.or.jp>

■編集協力 近代消防社